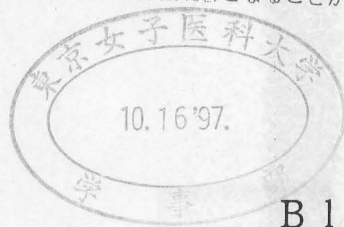


課 題 No. 4

「突然、おなかが張ってきた」

無断で複写・複製・転載すると著作権侵害となることがありますのでご注意ください。



Block. 6

シート1

中野早紀（なかのさき）さんは36歳。

今回が初めての妊娠で、これまで他院で定期健診を受けていましたが、妊娠32週の健診で下肢のむくみとタンパク尿を指摘され、胎児発育もやや不良ということで、当母子センターに紹介となりました。

シート2

入院時（妊娠32週3日）体重は68kg（非妊時体重：54kg）、
子宮底長：27cm、腹囲：88cm、下肢浮腫（+）、血圧は148/86mmHg、尿
タンパク（定性）：（+）でした。内診上、子宮口は1指開大しており、先
進部は頭部でstationは-2でした。

胎児心拍数陣痛図（CTG）、超音波検査の結果は別紙1、2に示す通りで、
血液検査の結果は以下の通りでした。

WBC: 8800/mm³, RBC: 420万/mm³, Hb: 12.4g/dl, Ht: 39.2%, Plt: 21.4万
/mm³, ESR: 26mm/2hr.

TP: 5.8g/dl, Alb: 3.3g/dl, T.Cho: 250mg/dl, TG: 382mg/dl, UA:5.9mg/dl,
CRP: 0.0, 他の肝・腎機能検査は異常なし

出血時間: 2分30秒, APTT:31.1sec. (29.0sec.), Fib:250mg/dl, ATⅢ:73%,
FDP:4.3 μg/ml

シート 3

入院加療により、血圧は130～140/80～90mmHgで、尿タンパクは30～60mg/dlでしたが、浮腫は消失しました。入院後7日目で腹部緊満は消失しました。胎児心拍数陣痛図（CTG）上、胎児心拍変動は著変なく、入院後の超音波検査所見の経過は別紙3の通りでした。

妊娠35週3日、腹部緊満を訴えたためCTGを行ったところ別紙4のごとくでした。その後、少量の性器出血があり、突然胎児心拍は別紙5のようになりました。

シート4

緊急帝王切開術となりましたが、その直前の母体血圧は96/68mmHg、脈拍は110/分、意識レベルは清明でした。腹部は板状に硬で、持続的な腹痛、子宮収縮を認めました。手術直前の血液検査結果は以下の通りでした。

WBC: 14200/mm³, RBC: 310万/mm³, Hb: 10.0g/dl, Ht: 29.2%, Plt: 11.2万/mm³, 出血時間: 3分30秒, APTT:38.8sec. (30.2sec.), Fib:100mg/dl, ATⅢ:67%, FDP:28.8 μg/ml, ESR:6mm/2hr.

開腹時子宮表面は約2/3が暗赤色に変色していました。児娩出直後、多量の凝血塊と共に胎盤が娩出しました(別紙6:スライド)。子宮収縮は不良で、術中出血量は約1500gでした。

児は1480gの男児で、Apgar score: 3(1分)→6(5分)、

臍帯動脈血:pH=7.098, PO₂=13.6mmHg, BE=-12.8mEq/l.で、NICU入院となりました。

患者は術後ICUにて全身管理を行いました。